

特定農業振興ゾーンの推進につながる農業生産額向上

要約

・国営総合農地開発事業でできた団地を中心とする特定農業振興ゾーン2地区において、冷涼な気候を活かし軟弱野菜等を生産する農業生産法人・生産グループ等の担い手に対し、生産額向上を目指し、生産基盤強化に向けた新技術導入のため、実証試験やヒアリング等の取り組みを行った。また、ゾーン内の遊休農地解消を図るため、地域特性を活かしたヨモギやトウキ葉等の新規作物の検索・導入・巡回指導を行っている。

現状(背景)と課題

- ・法人等の中心的な担い手が、新技術導入を通じて、生産基盤を強化し、安定した農業経営を継続、発展できる体制づくりへの支援が求められている。
- ・後継者不足等により保全管理農地・遊休農地の増加が懸念されるため、粗放的管理でも収益が見込める新規作物の導入・拡大を通じて、遊休農地解消と生産額向上を図る必要がある。

目標

- ・担い手の新技術導入によりゾーン全体の農業生産額を着実に向上させる。
- ・保全管理農地に導入可能な有望作物を確立し、遊休化の抑制と収益性向上を図る。

活動内容

- ・伊那佐東部地区では、スマート農業設備等の導入に向け、担い手へのヒアリングと意向調査を継続し、関係機関と連携して導入計画の作成と経営改善効果の検討を進めている。
- ・大宇陀政台北部地区では、祝だいこんの長期保存冷蔵施設導入の妥当性を検証しつつ、代替となる技術・設備や作目を探るため、複数経営体へのヒアリングや巡回指導を行った。
- ・ヨモギおよびヤマトウキ葉について、巡回指導や検討会を通じて栽培技術と生産上の課題を整理し、栽培希望者の掘り起こしと有望作目としての可能性の検証を進めている。

成果

- ・伊那佐東部地区で自動灌水灌水設備導入の方向で整備計画を進めることで合意形成し、省力化と生産性向上による生産額向上の方向性が示された。
- ・大宇陀政台北部地区では、新技術・設備導入の見直しや、担い手の新たな課題として、雇用・労務面を含めた経営改善支援の必要性を明確にした。
- ・ヨモギについて、体験圃場での作付拡大が進む一方、獣害や病害虫、倒伏対策が収益確保を目指す上で課題であると整理できた。



導入施設に関する事業検討会



ヨモギ栽培圃場（葉草・発酵博覧会イベント）

東部農林振興事務所農業振興課
担当：担い手・農地マネジメント係 藤田圭二
農産物ブランド推進係 北村奈生子
今西将太

普及活動のポイント

- ・担い手への丁寧なヒアリングと意向把握を行い、経営に適した導入すべき新技術を検討しつつ、農村地域振興課等とも連携して、無理のない導入計画づくりと経営改善を一体的に支援する。
- ・ヨモギについて、生産者が少ないためゾーン外の実需者へも巡回指導し、実需者との意見交換も行い、技術的、経営的課題の把握に努めるとともに、早期に課題解決できるよう研究機関との情報共有・連携も行っている。

対象の変化

- ・スマート農業、自動灌水などの導入検討を重ねる中で、話し合いの機会が増え、率直に意見交換できるようになった結果、技術内容の精度も高まり、技術導入への期待が高まってきている。
- ・ヨモギの試験導入を通じて倒伏や獣害などの課題も明らかになり、生産者や担い手がなかなか増えない不安は残る一方、薬草イベントへの参画で地域の交流や賑わいが生まれ、遊休農地を生かそうとする意識も見られてきた。

対象者からのコメント

- ・自動灌水は、省力化や安定生産に役立つ便利な設備だと感じています。一方で、故障時の負担も考え、自分たちで対応しやすく、長く使えるものを選びたいです。
- ・獣害対策や夏場の雑草管理は大変ですが、近くに出荷先があり、比較的手をかけすぎなくても栽培できる点に魅力を感じています。遊休農地の活用にもつながるため、今後も取り組みたいです。

これからの活動ビジョン

- ・各ゾーン内の担い手に対し、新技術・設備の導入や経営改善支援を着実に進め、省力化と品質安定を図りつつ、担い手の規模拡大と経営安定化を通じてゾーン全体の生産額向上につなげる。
- ・大宇陀政台北部地区でヨモギの収益性や課題を検証し、経営的に見合わない場合は新規品目も含めて有望作目を再検討し、遊休農地を活用した持続的な経営モデルの確立を目指す。

活動体制

宇陀市（連携推進）、担い手・農地マネジメント課・農村振興課（補助事業推進）、大和高原北・南部土地改良区（開発農地管理）、農業研究開発センター（技術支援）、東部農林農村地域振興課（連携推進）

用語解説

特定農業振興ゾーン

特定農業振興ゾーンは、奈良県独自の制度で、知事が設定。ゾーン内では、高収益作物への転換、耕作放棄地対策、担い手確保、農地整備などを総合的に進め、生産額の向上を図る

スマート農業

ICT、センサー、ロボット、AI等の先端技術を活用し、農作業の効率化、農作業における身体の負担の軽減、農業の経営管理の合理化による農業の生産性の向上を図る農業。